

平成29年度
終了課題

厚生労働科学研究費補助金

認知症政策研究事業

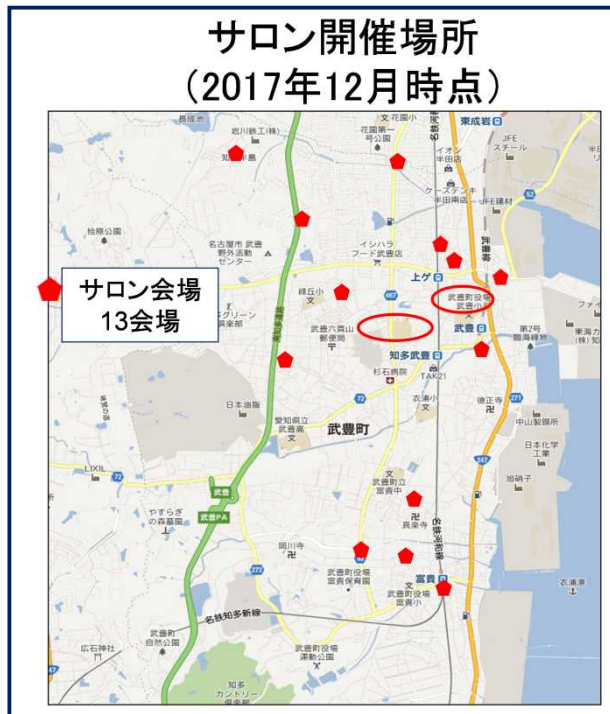
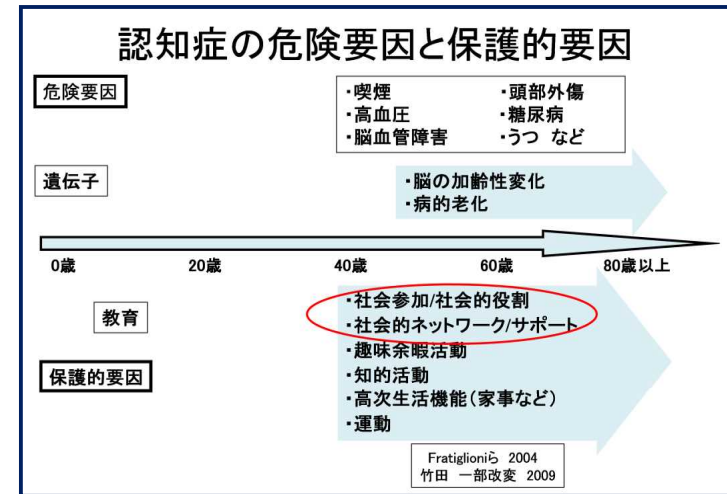
ポピュレーションアプローチによる認知症予防のための 社会参加支援の地域介入研究

平成27年度～平成29年度 研究成果の概要

研究代表者 竹田徳則

背景

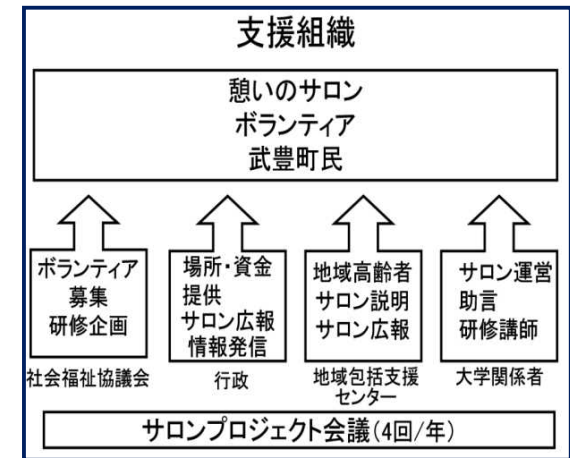
- 認知症の予防策の構築はわが国のみならず世界的な課題
- 社会的要因も認知症発症リスクだがこれに着目した地域介入研究はない
- 愛知県武豊町で「憩いのサロン」事業を地域介入研究として継続中



愛知県武豊町サロンの合言葉

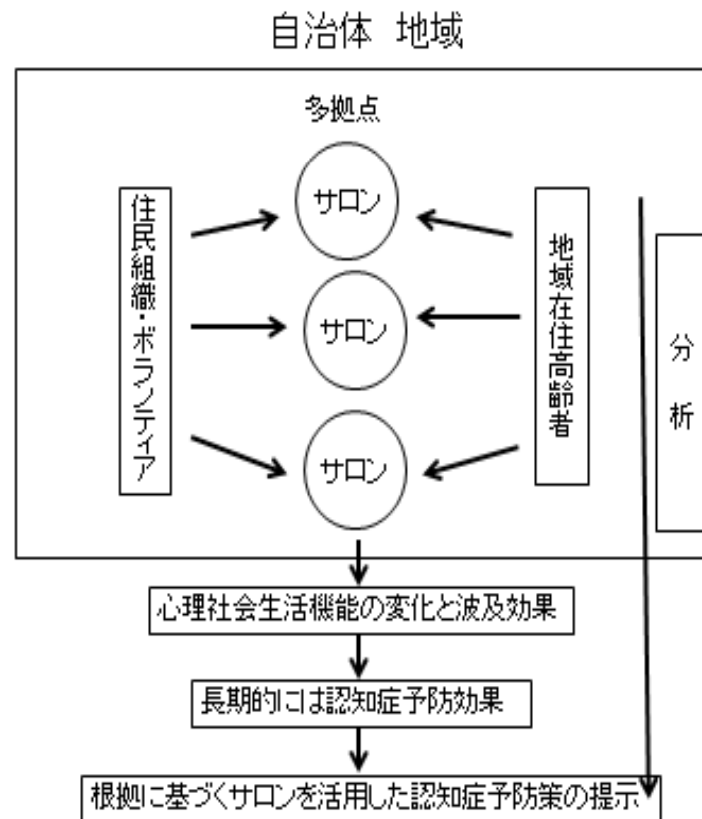
2006年より準備⇒2007年3カ所で開催⇒現在13箇所

- ◆ みんなの笑顔があふれるサロン
- ◆ ひとりひとりの思いを大切にできるサロン
- ◆ 人と人がつながる出会いのサロン

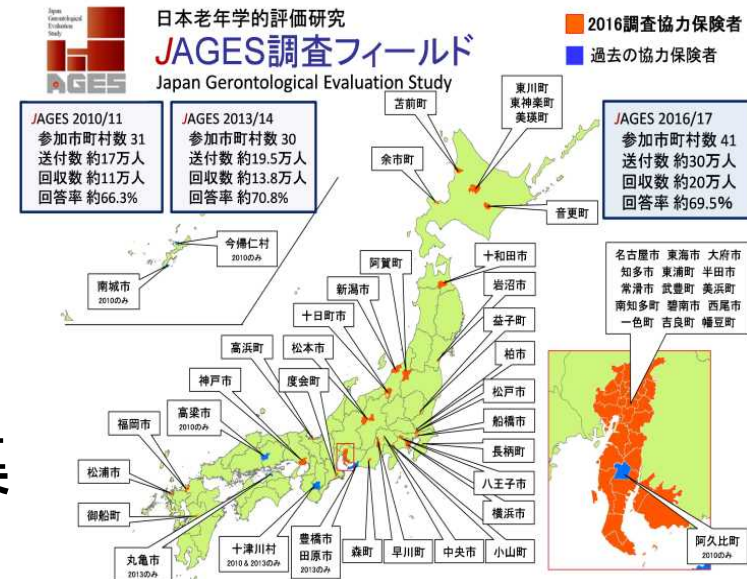


研究目的

- 本研究の目的は、通いの場(サロン)を活用した地域介入と、追跡データの分析による認知症予防効果の検証、サロン参加による心理社会的波及効果を明らかにすること

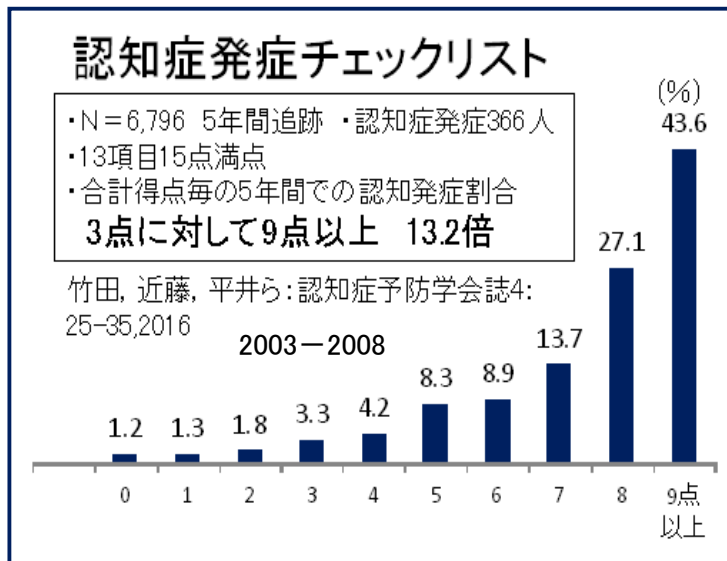
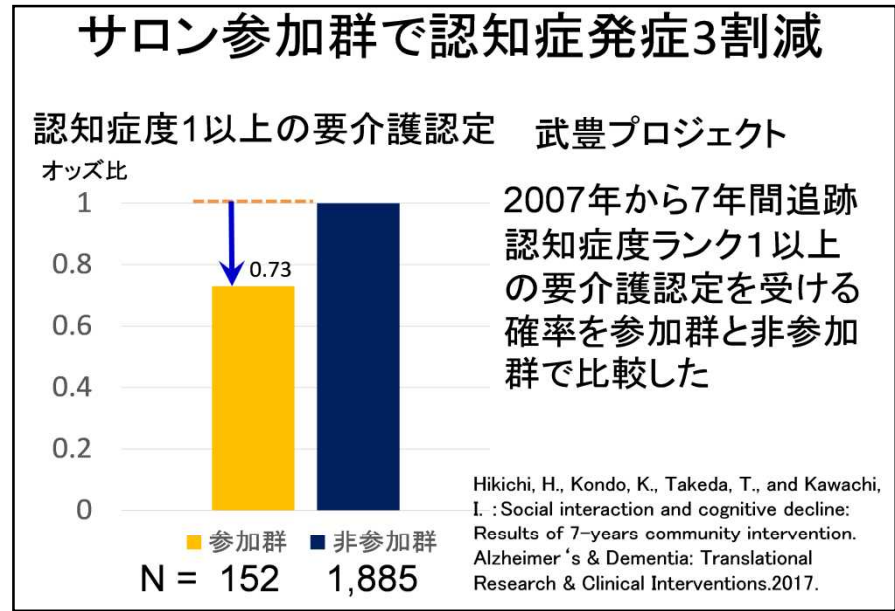
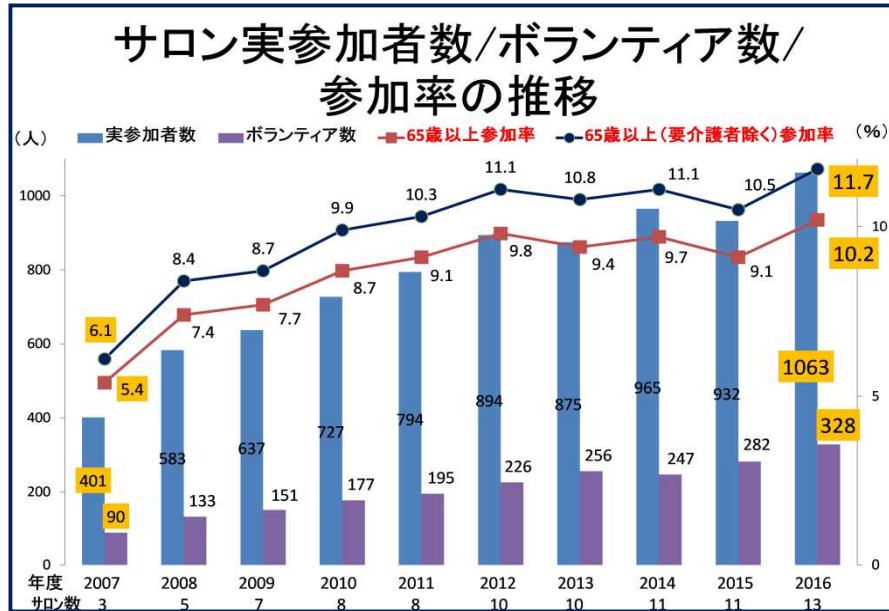


研究方法

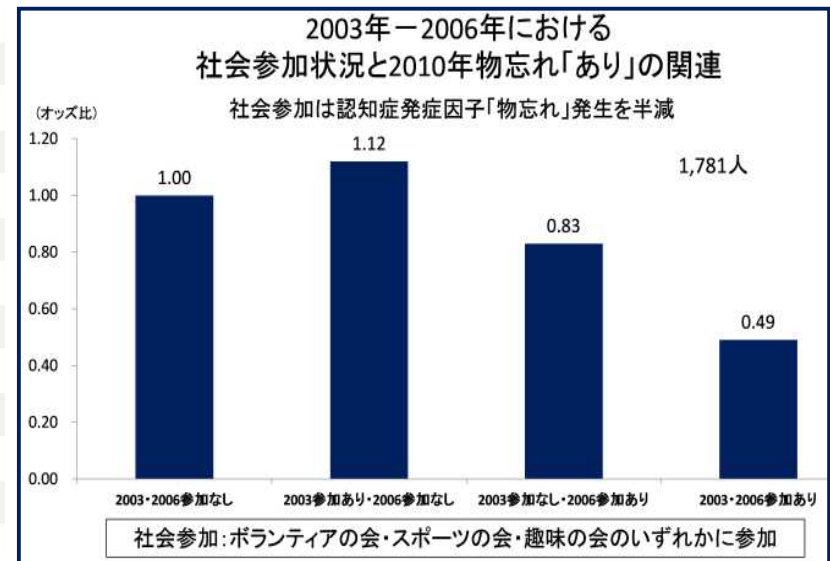


- 多市町からの大規模データ収集
 - ・日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクト参加自治体に調査協力依頼
- 既存データ及び新規調査データの分析
 - ・縦断データ分析/横断データ分析
- ツールやシステム開発
 - ・認知症発症関連要因の地域診断(サロン)支援システム開発

結果 縦断分析



年齢	75歳以上
仕事	なし
糖尿病	あり
もの忘れの自覚	あり
うつ傾向・状態	あり
情緒的サポート受領	なし
スポーツ的活動	なし
バス電車利用外出	不可
食事用意	不可
請求書支払	不可
年金書類作成	不可
新聞	読まない
病人見舞う	不可

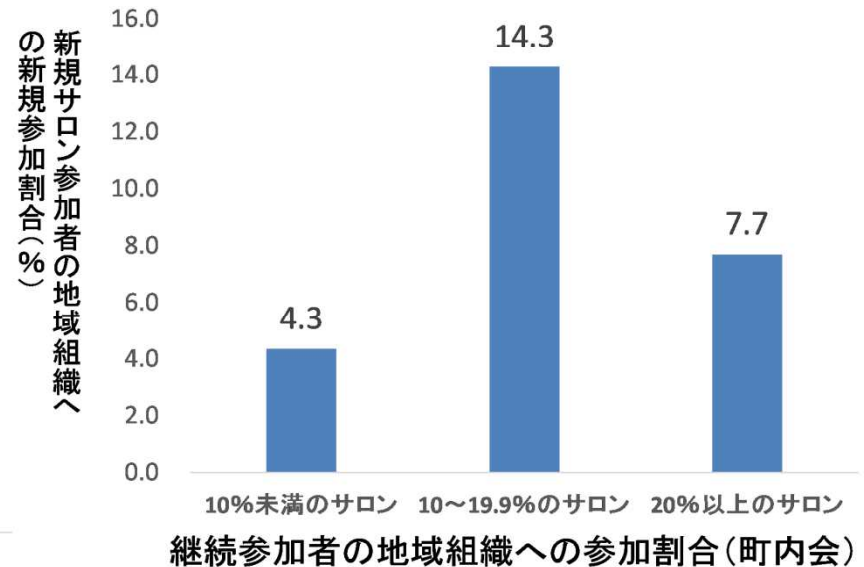
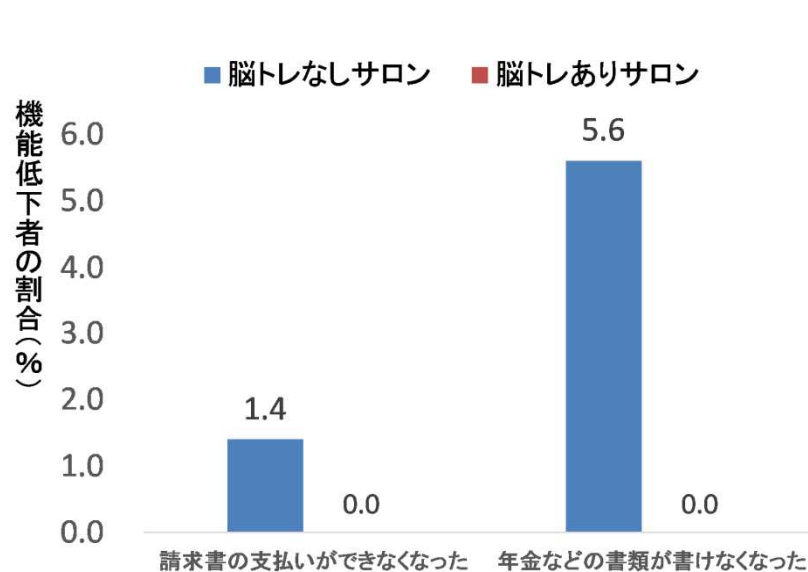


サロンプログラム・サロン継続参加者の 社会参加状況の違いによる変化や影響

2010-2013パネルデータを用いた縦断分析

脳トレプログラム「あり」サロンで
請求書支払い・年金などの書類を書く
低下者なし

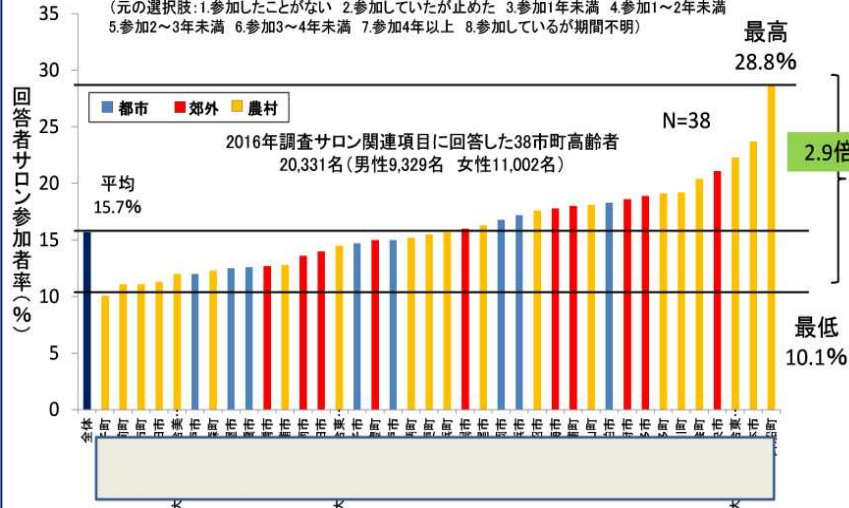
継続サロン参加者で地域組織への参加が
(月1-2回以上) 10%未満のサロンでは新規
サロン参加者の地域組織参加割合は低い



結果 横断データ分析

サロン参加者割合は15.7%

サロン参加者 バージョンC 問17 サロン活動への参加期間はどれくらいですか
 「3.参加1年未満～8.参加しているが期間不明」と回答した者の割合
 (元の選択肢: 1.参加したことがない 2.参加していたが止めた 3.参加1年未満 4.参加1～2年未満
 5.参加2～3年未満 6.参加3～4年未満 7.参加4年以上 8.参加しているが期間不明)



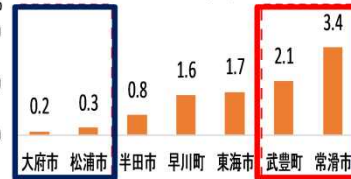
通いの場への参加理由

～二次予防参加者割合の高い市町と低い市町との比較から～
 二次予防参加者の選定方法: 生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能のいずれか1つでもリスクのある者

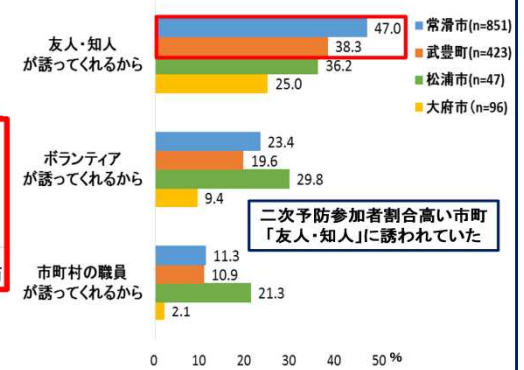
分析対象
 JAGES参加7市町の通いの場109箇所参加者3,305人のうち条件満たした2,637人

二次予防参加者割合
 0.2%～3.4%
 3.2%ポイントの差

7市町における二次予防参加者割合



通いの場参加理由における勧誘者の比較



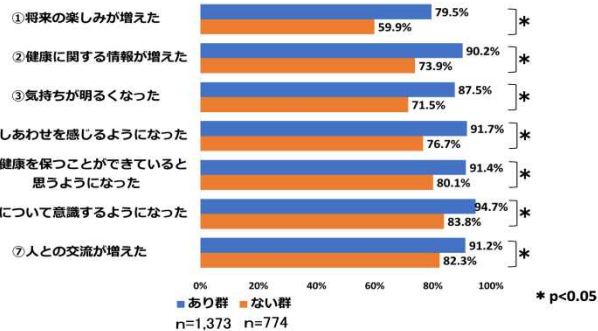
通いの場参加がきっかけで始めた運動の有無と心理社会面との関連

サロン参加がきっかけで始めた運動あり5割



分析対象: JAGES参加7市町の通いの場109箇所の参加者3,305人のうち条件満たした2,578人

新たに始めた運動
 「あり」群は「なし」群に比べ
 良好な回答をしている者が有意に高い



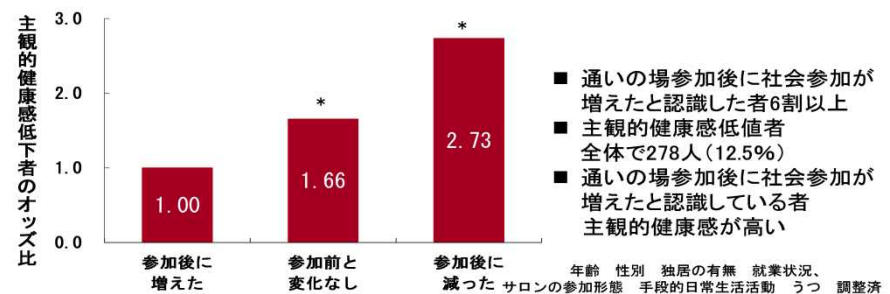
通いの場参加者の参加後の社会参加状況と主観的健康感との関連

分析対象: JAGES参加7市町の通いの場109箇所の参加者3,305人のうちの2,223人

サロン参加後の社会参加状況



サロン参加後の社会参加増減別の主観的健康感低下者割合

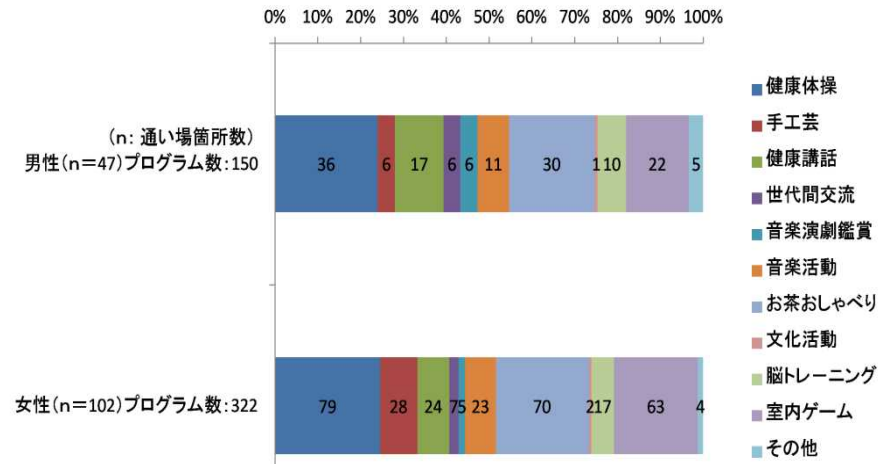
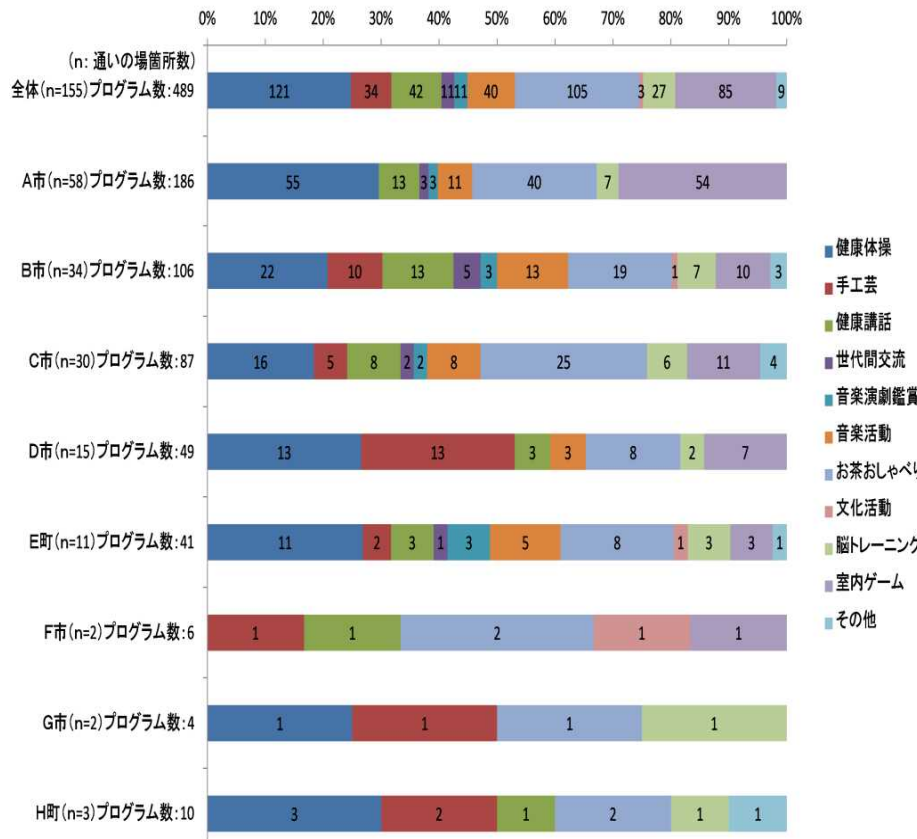


結果 横断データ分析

JAGESプロジェクト参加8市町通いの場155箇所 プログラム傾向

全体：健康体操/お茶おしゃべり/室内ゲーム
各市町：傾向様々 例D市 手工芸多い

男性ボランティア代表通いの場
・健康講話
女性ボランティア代表通いの場
・手工芸



結果

地域診断(サロン)支援システム開発

JAGES2016 | サロンベンチマークシステム

JAGES2016

JAGES2016 | サロンベンチマークシステム

JAGES2016

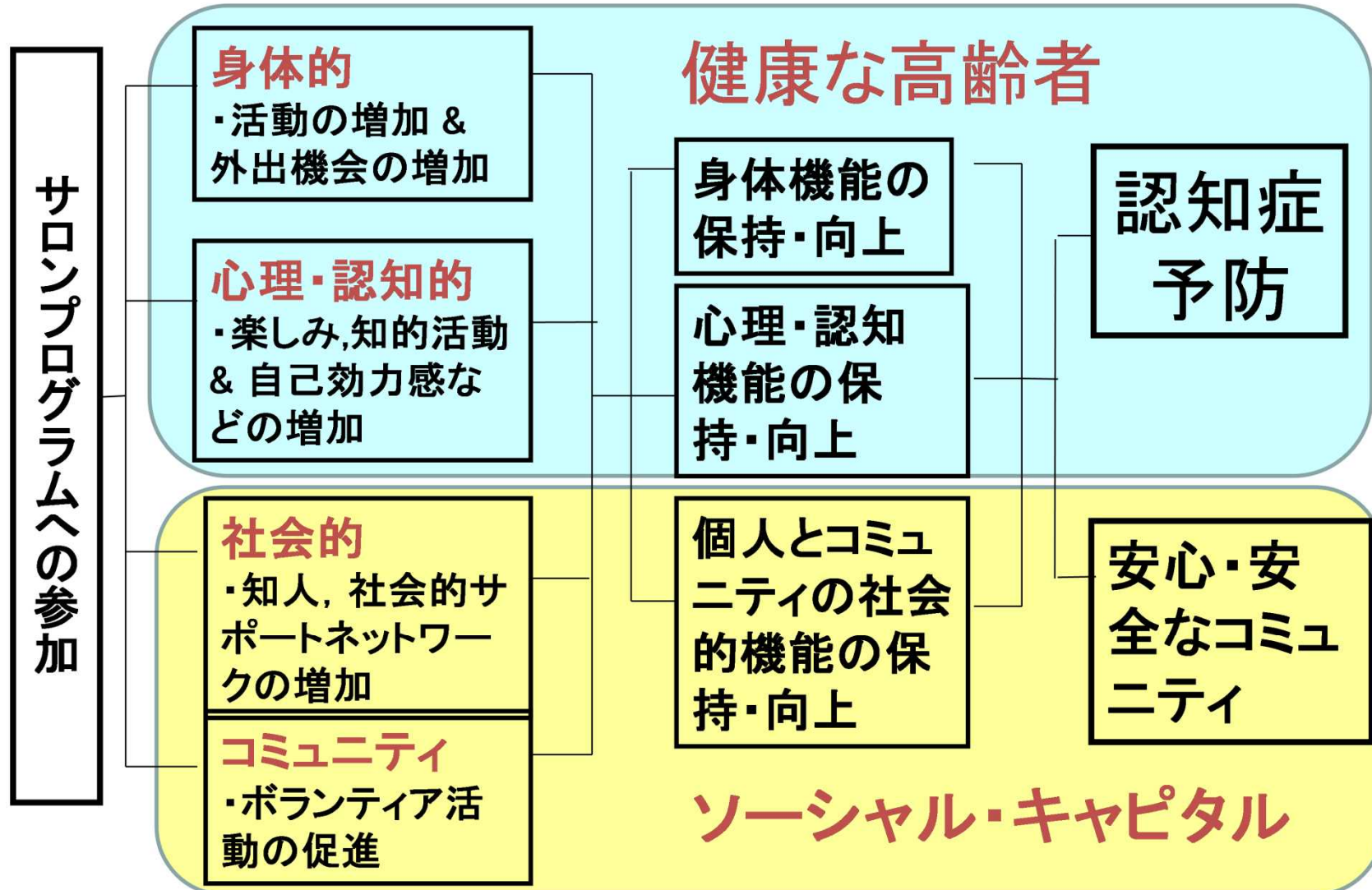
印刷する



- ・ **インプット**: ボランティア総数や高齢者人口当たりのボランティア実施者割合など(9項目)
- ・ **プロセス**: サロンなど拠点数や1カ所当たりボランティア人数など(7項目)
- ・ **アウトプット**: 延べ参加人数や実参加人数など(4項目)
- ・ **環境**: **人口密度**: 市町村間・小地域間比較や公園数など(5項目)
- ・ **個人**: 参加者の平均年齢や参加開始時点の運動機能低下者割合など(38項目)
- ・ **中間アウトカム**: サロンの日に歩く時間が長い人の割合など(7項目)
- ・ **アウトカム**: サロン参加後の虚弱者や運動機能低下者割合など(81項目)
- ・ **インパクト**: 参加前の要支援・要介護認定率や参加後の認知症を伴う認定率など(9項目)

考察

介入 → 中間アウトカム → 最終アウトカム



結論

1. 社会参加通いの場への非参加者に比べ参加者では7年間で認知症発症3割減の予防効果を検証
2. 通いの場参加者には、要介護リスク者が従来の二次予防事業より多く参加
3. 通いの場参加による良好な心理社会的波及効果を確認
4. 通いの場の多拠点化による社会参加促進と地域診断支援システムの活用により、根拠に基づく認知症予防事業展開とその評価が可能